

<良い地になる手入れ>

ルカ8：4～8

◆イエス様の譬え語しは、子どもにも無学な人にもわかりやすく真理がよく伝わった。しかし、わかりやすければ、誰が聞いても同じように理解するわけではなかった。



初めはストレートに福音を語ったイエス様。

ある時から譬えを用いて語るようになった。何故・・・？

徐々に深まる律法学者・パリサイ人たちとの対立関係。

わたしが来たのは地に平和をもたらすためだと思ってはなりません。わたしは、
平和をもたらすために来たのではなく、剣をもたらすために来たのです。 マタイ10：34

イエス様によって真理が解き明かされた。受け入れる人、拒む人。
いさかいが生じることは避けられない。しかし、イエス様はどんなときにも
拒むものにもご自分を与え続けた。

イエス様はパリサイ人たちにどんな視線を向けていたのだろうか・・・？

1、どんな状況で語られたのか

①場所は湖のほとり。イエス様は湖を背にして船に腰をおろし語られた。

②方々の町から大勢が集まっていた。子どもからお年寄りまで。

漁師や、商売人、農夫、知的な人、無学な人。色んな種類の人たち。

まぎれてパリサイ人や律法学者たちもいた？！

2、どんな内容だったのか

蒔かれた種は同じもの。しかし落ちた場所が違ったので、違う結果をもたらした。

道端 / 岩の上 / いばら / 良い地

種・・・人の心にまかれる神のみことば。

土地・・・神の御言葉をどのように聞くのかという私たちの心の状態。

①道端・・・踏み固められた場所。

自分の力こそ全て。私には必要ないとはねつけてしまう、固くて種をはじくような心の人。自分を過大評価すれば、自分にとっても必要である自覚は持てない。むしろ反発で終わってしまう。

②岩地・・・芽は出たが、根が無くて枯れる。

喜びを失う。試練の時に神様は祈りに応えてくれなかった。助けてくれなかった。がっかりだと言って、神様から離れていく。

③いばら・・・いばらに押し塞がれる。

いばらは世の心遣い、富、快樂。どれも私たちの日常生活に混ざり込んでいるもの。小さいかけらでも、あつと言う間に大きくなって覆ってしまう。

④良い地・・・100倍の実を結ぶ。

◆同じ種でも、まかれる土壌によって結果が変わる。

これを聞いていた人はどんな反応をしたらろうか。 律法学者パリサイ人達は？

イエス様は弟子達に解き明かされた。

しかし、良い地に落ちるとは、こういう人たちのことです。正しい、良い心でみことばを聞くと、それをしっかりと守り、よく耐えて、実を結ばせるのです。15節

良い地は、自分の力で実を結ぶ立派な人になることではない。

みことばを私たちの内に実現してくださる神のことばを信頼し、実を結ぶことを忍耐して待つ人。